

下りたぐれ由り上り道盛公大に驚きむい清藏より  
上物降り諸臣評儀の処今時の人北に才り難く不強法  
藏を使とりぬ宛を登り迎まき下居馬を足月山脈法  
の法百歩法須に登せしむる極も清藏法須より下り塚  
本小大膳より上者を頼りて最初前田が虎安の旨を  
道盛儀平將軍貞盛の門下ありて戸は飛彈守兼  
盛より以来山本郡仙北を領し近年秋田小野寺  
と雄雄を争ひたぐい小野を頼り自分馳参りし事  
あり預く使者を以て微意れ丹誠をあらわす旨より  
多し信長公より累代の不領を諸勿福より近年秋田

小野寺隊を頼りぬより一披露不及下知を以て非礼を  
たぐふく其間に少くはあし相守られし時と念ひの御  
返事より清藏角館に下る其後前田の仙北に下る受  
りし秋田を頼りてかれ家小野寺より天正九年夏に以  
より道盛公又例日十月十八日で十九歳より逝去盛安  
公小野寺孫十郎義通日比を道盛公に武威小をそれ  
兵を参す事も叶はず以降を幸い角館に押参んと  
儀すより一角館に用へられを送参り小野寺越後守  
が湯沢の城を攻落し直小阿隅川に押参り評定へ  
参りて天正十年二月十二日亦参り小野寺原五百余騎